

手を握らずに親と子



令和5年12月発行 登別市教育委員会・学校教育グループ「子育てコラム」 No. 28



子育てに正解なし

子育てについて不安を感じることはないでしょうか。たとえば、こうすれば必ず良い子に育つと聞いた方法を試そうとしても、それが全ての子どもに同じように通用するわけではないので、うまくいかないことがあります。

それでも、数々の成功や失敗を経験した諸先輩からのアドバイスを知る機会を大切に、謙虚に耳を傾け、試行錯誤しながら自分の子育てに生かしてみましょ。どんなことから学ぶことがあり、プラスになるはず。

今回は、多くの親が迷いや不安を感じる「ほめ方と叱り方」について紹介します。

叱るばかりでは逆効果

子どもが人間社会の約束事を破ったら、小さなことでも叱るのが親として当たり前のことです。でも、叱ってばかりだったり、叱るところか怒って感情をぶついたりしていると、子どもは自己肯定感が低いまま自分の殻に閉じこもり、聞く耳をもたなくなるかもしれません。



まずほめる

時と場合にもよりますが、どちらかといえば、良くできたことを優先してほめるのは効果的です。親から認められているという安心感や、やればできるという自信をもたせることができます。そういう気持ちのときなら叱られたことを素直に聞き入れることができます。それが自ら考え、自ら伸びていくための力になります。

- 「～とか～など良いところがたくさんあったね。次は□□をがんばろう。」
- × 「まず××するところを直しなさい。あんなことをするのは良くないね。」

●できているところ

●努力しているところ



まずほめろと言うけれど、ほめるところが見つからず、自分はいつも叱るばかりだと自己嫌悪に陥る方もいるのではないのでしょうか。親が求めるレベルであるものを探そうとすると見つけれないものです。今できていることや、やろうと努力していることなら見つかるのではないのでしょうか。

「可愛くば、五つ教へて三つほめ、二つ叱って良き人となせ」

二宮尊徳

評価する5つの対象を見つけ出し、そのうち3つをほめ、2つを叱るほめるだけでは駄目になるし、叱るだけでも駄目になる



他にも、「八つほめて二つ叱る」や「一つ叱って三つほめ五つ教える」など、昔から広く言い習わされてきたことばによると、叱ることは少ない方がいいようです。

配慮ある叱り方

～叱り方にも気を付けるべきことがあります～

- 他の子どもと比べない (人は誰もが他と違う個性をもつ世界に一つだけの花)
- 人前では叱らない (子どものプライドに配慮 ほめるのは人前がおすすめ)
- 感情的にならない (子どものためを思って言っていることが伝わるように)

× 「こんなに暗くなるまで何をやってたの！」

○ 「どうしたの 心配したよ」

- 叱った後はフォローする

○ (抱き寄せて)「どうしてきつく言ったか分かるかな、...」

○ (手を握って目を見つめ)「次はきっとできるよ、...」



親として成長する

このように、ほめ方と叱り方だけでも参考にしたいことがたくさんあります。困ったり迷ったりしたら話し合える人、相談できる人がたくさんいるといいですね。いろいろなところに出かけ、いろいろな人と知り合い、その縁を大事にしましょう。

先人のことばや先輩のアドバイスを謙虚に受け止めて試行錯誤するうちに、人として親として成長することができるでしょう。そのことが、子どもをはじめ皆さんの周りの人を幸せにすることにつながり、ひいては皆さん自身を幸せにすることや、社会全体を明るくすることにつながっています。